

「中山間地の農地活用に関する検討部会」作業部会結果

令和7年2月5日（水）14時00分

松本市役所四賀支所3階 305号室

1 出席者

9名

2 懇談事項

- (1) 令和7年度、四賀給食センターで使用する農産物の作付けについて
- (2) 納品方法、目標値
- (3) その他

3 会議結果

(1) 学校給食での食材発注に関して

ア 現在、四賀給食センターで使用する地域食材の調達にあたっては、学校栄養教諭が各農業者と直接連絡をとり、現に農家が納品できそうな食材を考えながら必要な量や納期などを調整している

イ 主要15品目の内、えのき・しめじ・もやし以外は、多品目を扱う農家が多いため四賀地域で対応可能

ウ 給食に使用する食材の種類や量は前回会議で示されたデータから把握が可能
納品にあたっては農家ごと食材が重なる場合が多い、農家で月々の作付け予定表を作成するなど切れ目なく地元食材をセンターに納品することは可能か

＜＜結論＞＞

➡農家個々でセンターに報告するのではなく、農家が（仮称）四賀給食の会などの組合を設置して、窓口を一本化する（目指す）

(2) 価格について

ア （農家の立場として）農家ごと価格がバラバラだと給食センターの負担となることに加え、（あまり高額だと）発注が難しくなるのではという懸念

イ センターとして単価の安定と平準化は計画が立ちやすく理想ではあるが、天候や他の影響から仲卸でも日々の単価が違うことは当たり前のこと、ある程度の幅は全く問題ない

＜＜結論＞＞

➡価格は個々の農家で通常通り設定する

- ・環境にやさしい農法の方が価格の安定につながる可能性が高い
- ・生産者が拡大して大規模センターにも食材提供が可能な生産者組合などができれば地域食材の使用率向上にもつながる

(3) 納品について

ア 野菜の収穫量が想定より多くなった場合、その他に「今月はこんな食材がたくさんある」など、給食に使用できないか

イ 納品の時間帯が生産者にとって難しいこともある

《結論》

- ➡ ・小規模センターであれば、約1か月前に献立を作成する関係で相談いただければ対応可能な場合がある
- ・大規模センターを含む他のセンターで、貯蔵できる根菜類なら相談に応じられる場合あり、直接連絡可（荷受けは14時～16時目途）

(4) 目標設定

ア 前回会議までに主要15品目の地域農産物の使用率を上げていくことを決定したが、具体的な目標値を設定してはどうか

イ 四賀給食センターの松本地域産食材の使用率実績

R2:38.6% R3:47.3% R4:45.0% R5:31.9% R6:42.3% 5年平均:41.02%

よって、直近5年の平均と令和6年度の実績実見込みから、約2%ずつ上昇させることで令和10年の目標を50%としてはどうか

《結論》

- ➡ プラットフォーム課題別検討部会②の独自の目標、当面の目標として、四賀給食センターの松本地域産食材の使用目標を設定
R7:44% R8:46% R9:48% R10:50%

※まずは1年やってみて検討していくということ

(5) その他

《大豆（あやみどり）の生産について》

ア 山雅ファームで大豆（あやみどり）の作付けを進めていて、四賀地区の遊休農地等を活用して生産を広げることができないか

イ 四賀地区は野生鳥獣、特に鹿の食害が深刻で課題が多い

ウ 四賀地区で大豆（あやみどり）の生産と畑の管理を一体的にできるような方がいれば、移住者なども含めて紹介、ご協力いただきたい

《R7環境にやさしい給食の日について》

エ 令和7年度は2回計画、出来るだけ地元の野菜を優先して地元の子どもたちに食べてもらいたい、食材提供含め皆様のご協力をお願いしたい

4 今後について

(1) 窓口の一本化、目標値の達成に向かって、生産者と給食センターがより緊密に連携して取組みを進める

(2) 次回コア会議へ報告する